



子どもの頃の読書は人生を豊かにします

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センターは、こどもの頃の読み聞かせや読書活動の実態、読書活動が大人になった現在の意識・非認知能力に与える影響、それに読書活動を形成する要因を検証するために、全国の20~60代の男女5,000名(各年代男女500名ずつ)を対象にインターネット調査を実施しました。

また、子どもの頃の読書活動と認知機能との関連について、大学生を対象に分析し、多面的に読書活動の効果を検証しました。

■調査結果のポイント

- ① 子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力※と認知能力が高い傾向がある。
- ② 興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通した読書量が多い傾向にある。
- ③ 年代に関係なく、本(紙媒体)を読まない人が増えている(平成25年と平成30年を比較して)。
- ④ 一方で、スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスを使った読書は増えている。
- ⑤ 読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本(紙媒体)で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。

※非認知能力とは、学力テストでは計測できない能力、いわば「生きる力」のこと

読書を好む子どもの要因を質的に検討した先行研究は、年齢や興味のある本を簡単に入手できるようにすること、家族で読んだ本について会話すること、同じような関心を持つ仲間がいることが積極的な読書活動につながることを報告しています。

分析の結果、関連する要因として抽出された絵本を読んだこと、地域の図書館で本を借りたことは、年齢や興味にあった本を簡単に入手できる環境にいることを示唆しており、「図書委員」「読書コンシェルジュ」(読書リーダー)の活動をしたことは、他者との活動であるため、先行研究の結果を支持していると考えられます。

それぞれの環境に合わせて子どもたちの読書活動を活発にしていくことの大切さを感じる調査結果です。

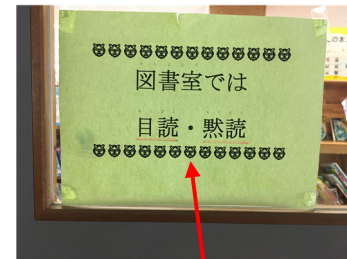
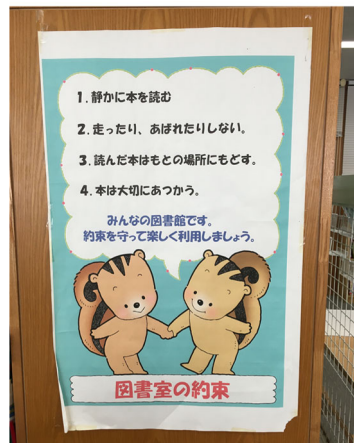
国立青少年教育振興機構より

<http://www.niye.go.jp>



Hello! 学校図書館 照葉小中学校

今月は東区の照葉小中学校を紹介します。
秋とは思えないほどの暑い日でしたが、校長先生、教頭先生に笑顔で迎えていただきました。小中学校が同じ図書館で学んでいますが、今回は主に小学校の図書館を紹介します。



広い図書館ですが、とてもきれいに整理されていて気持ちの良い場所となりました。

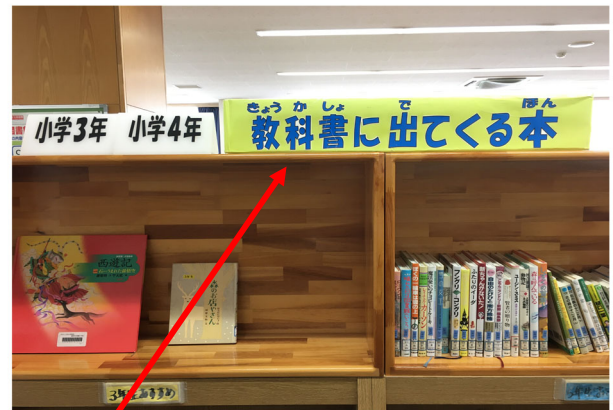
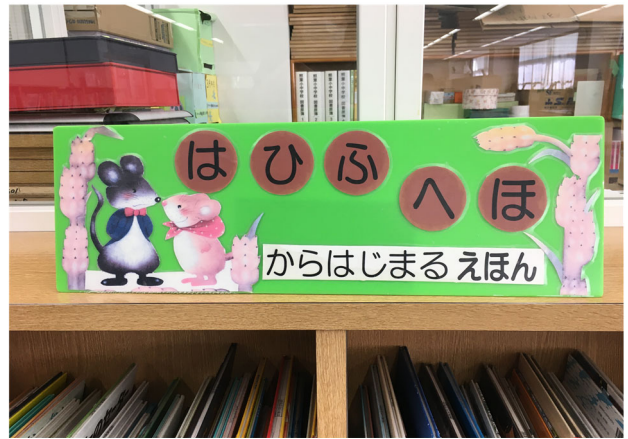
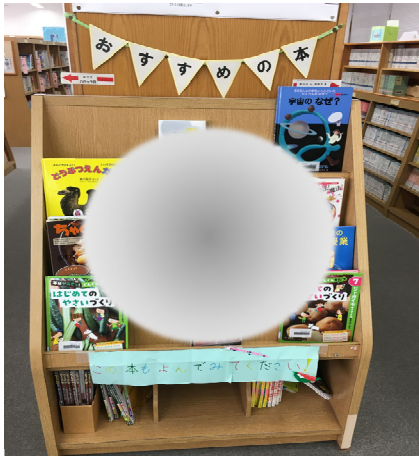
入口に掲示してあった「目読・黙読」がきちんと守られているのでしよう。



絵本コーナーには、畳が敷いてありました。子どもたちがリラックスして読書を楽しんでいる様子が目に浮かぶようです。



さまざまなコーナーの工夫



子どもたちがさまざまな本に興味を持ったり、読みたい本を探したりしやすいように、コーナーが作ってありました。「教科書に出てくる本」のコーナーは学習の並行読書として、大切なコーナーですね。

別置のコーナーは、子どもたちが本を借りるとき、迷ったときに助けてくれそうですね。

本の帯を使った11月・12月の掲示・展示

今年もあとわずかになりました。新しい年を迎えた子どもたちが、図書館に入ったとき、あたたかい気持ちになるような掲示物を作りましょう。

令和5年はうさぎ年です。うさぎに関する本のコーナーを作るのも良いですね。



掲示物に綿を使うと、柔らかい感じになりますね。

どんな模様や飾りを付けようかなと悩まれた時、型抜きをたくさん準備しておくとう便利です！

子どもとたちを選んで貼ってもらうのも楽しそうですね！





1月の人どもの



1.1 元旦

一年の始まりの日を元日といいます。「元」は、一番初めという意味があります。元旦は、元日の朝のことをいいます。旦は、朝という意味です。1948年の祝日法によって、「年のはじめを祝う日」として国民の祝日と制定されました。

1.11 鏡開き

お正月にお供えした鏡餅を食べます。昔は、米で作った餅には生きる力や不思議な力があると信じられ、お祝いやお祭りの時に供えました。神聖なものなので包丁は使わず、手や槌で割っていただきます。

1.17 防災とボランティアの日

1995年午前5時46分、兵庫県南部をマグニチュード7.2の地震が襲いました(阪神・淡路大地震)。約6,400人の命が奪われる大惨事に、全国からボランティアが集まり、認識が高まったことから制定されました。

棕 鳩十(1905.1.22~1987.12.27)

「片耳の大鹿」「孤島の野犬」など動物と人間が自然の中で共存する姿を描いた作品を多く執筆し、「動物文学」のジャンルを確立。のちに鹿児島県立図書館長になり、「母と子の20分間読書運動」を提唱しました。

斎藤 隆介(1917.1.25~1985.10.3)

東京生まれの児童文学作家。1950年に初めての短編「八郎」を発表。以後、人間の本当の優しさ強さを追求した作品を書き続けました。「ベロ出しチョンマ」「モチモチの木」など、切り絵作家滝平二郎との絵本を多数出しました。

長谷川 町子(1920.1.30~1992.5.27)

ご存じ、「サザエさん」の作者です。日本初の女性プロ漫画家で、地方新聞の4コマ漫画の第一人者です。1992年7月、家族漫画を通じて戦後の日本社会に潤いと安らぎを与えたということで国民栄誉賞が授与されました。

【あとがき】 未だに落ち着かないコロナ禍の中での冬休みが始まります。いつもはゆっくり読めない本を、この機会に読んでみるのも良いですね。私は、1年生国語の教科書にある「おかゆのおなべ」や「ヘンゼルとグレーテル」「あかずきん」などグリム童話をもう一度ゆっくり読んでみたいと思います。(結末があやふやのものがいくつか・・・) 【足立】



ページをめくるのが楽しくなる絵本をご紹介します。

『のせのせせーの!』

齊藤 倫／文 うきまる／文 くの まり／絵 ブロンズ新社 2022年 ¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「のせのせせーの!」でページをめくると、右のページの2匹の蝶が、左のページの女の子の髪飾りに早変わり。蝶がいた丘はさみしくなりましたが、またページをめくると、今度は丘に咲いている花が女の子のワンピースの柄に大変身。

「のせのせせーの!」の言葉とともにページをめくると、右のページの絵が左のページの絵に「のせのせ」になっていく、楽しい絵本です。

<子どもに手渡す時のポイント>

絵が細かく美しい絵本なので、ひとりでじっくり見ても楽しめますし、何人かで絵本を囲んで見るのもお勧めです。絵が「のせのせ」になるだけでなく、よく見ると繋がっているなど、楽しい発見がたくさんあります。小さい子だけでなく、小学生でも楽しめる絵本です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801